

## 在宅障害児の療育指導：家族短期施設利用を行った家族へのアンケート調査を通して

(分担研究：学童期の療育指導の在り方、分担研究者 小西行郎<sup>1)</sup>)

研究協力者 栗原まな<sup>2)</sup>

### 要約：

当センターで行っている在宅精神薄弱児短期入所（家族短期施設利用）事業における支援状況（特に小児科医とリハスタッフの役割）、家族のかかえる問題点については平成8、9年の本研究にて報告した。今年度は更に発展させ、「家族短期施設利用」を行った家族に対しアンケート調査を行い、養育の中での「家族短期施設利用」の意義を検討した。それを通して、在宅における家族の抱える問題の把握と、それらの問題に対する療育指導の在り方を検討した。

見出し語：在宅障害児、療育支援、家族短期入所、アンケート調査

### はじめに：

当センターは、県から2病院、6福祉施設、研究・研修所および看護学校の管理、運営等を受託し、身体障害者、精神薄弱児者、老人など心身に障害を有する人々に対し、医学、心理、社会、教育、職能等の面から、治療、総合評価、支援、訓練等を行い、さらに地域福祉医療への協力を行っている。

その一貫に、「地域福祉対策事業」があり、その中で最も力を入れている在宅精神薄弱児短期入所（家族短期施設利用）の概要について、平成8、9年度に報告した。

本年度はさらに家族短期施設利用を行った家族にアンケート調査を行い、養育の中での「家族短期施設利用」の意義を検討した。それを通して、在宅における家族の抱える問題の把握と、それらの問題に対する療育指導の在り方を検討した。

### 研究対象および方法：

「家族短期施設利用」は、在宅の精神遅滞児およびその保護者を共に短期間入所させ、児童の行動観察および指導を行い、さらに保護者に対して、精神遅滞児を正しく理解するための相談、助言、指導を行うことを目的としている。小児科医を中心として、地域福祉課員、言語療法士、臨床心理士、看護婦などのスタッフが関与し、児と保護者の個別または集団指導を実施し、4泊5日の入所を原則としている。

今回は、「家族短期施設利用」実施1カ月半から2カ月後に、利用時を振

---

1) 福井医科大学小児科 (Dept. of Pediatrics, Fukui University)

2) 神奈川県総合リハビリセンター小児科 (Dept. of Pediatrics, The Kanagawa Rehab. Center)

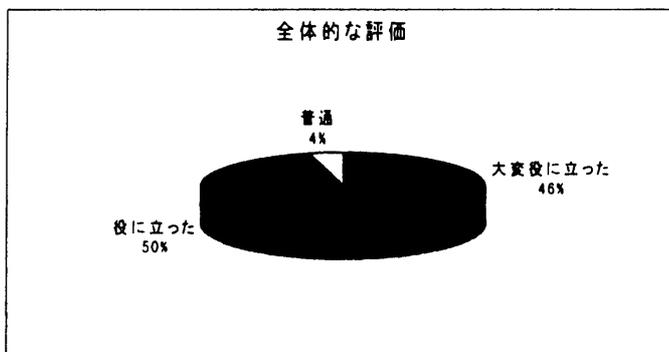
り返る形で、アンケート調査を行った。

対象は、平成9年度、4泊5日の「家族短期施設利用」を行った82組で、回答数は52件(63.4%)であった。

調査項目は、(1)「家族短期施設利用」の全体的な印象、(2)期待した事柄についての満足度、(3)利用後の児童の様子、(4)利用後の母親の様子、(5)全体的な感想・意見である。

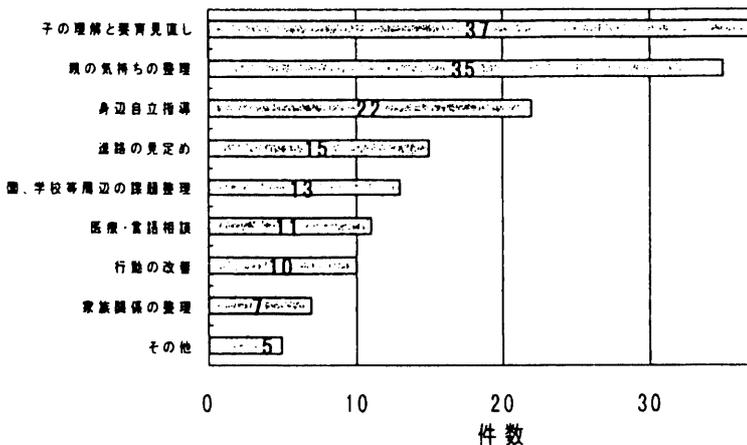
結果：

### 1. 利用者(母親)の「家族短期施設利用」に対する全体的な評価



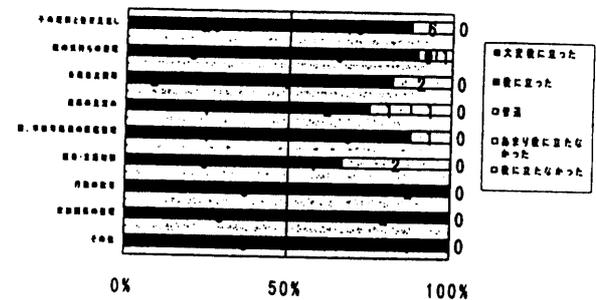
全体的な評価として、「大変役に立った」「役に立った」を合わせて50件(96%)であった。

### 2. 利用者(母親)が「家族短期施設利用」に期待した事柄



特に、「母親側の養育姿勢」を振り返ったり、「気持ちを整理する場」として求めている(82件,69.5%)ことがわかる。

### 3. 「家族短期施設利用」に期待した事柄についての満足度



期待していた事柄について、「大変役に立った」「役に立った」と回答している例が101件(87%)と良好であった。

### 4. 利用後の児童の様子

身辺面の向上、言語面の向上、対人関係の向上、興味・関心の広がりの中で改善が認められ、母親自身の養育の励みになっていることがうかがえた。

### 5. 帰宅後の母親の様子

養育姿勢が変わった、元気になった、気持ちの余裕ができた、前向きになれた、他の母親との出会いがあった、地域に働きかけるきっかけとなった、などの記載があった。

### 6. 全体的な感想・意見

本プログラムに心の支えを感じられたという意見が目立った。特に、気持ちの整理ができ、現在の状況を見直す機会となり、新たな出会いが得られたという積極的な感想・意見が多かった。

### 考察：

地域福祉課は昭和54年に設置され17年を経過する。心身障害児者の在宅福祉の向上をめざし、事業が展開されてきた。近年ますます在宅での療育の重要性が強調されるようになり、本事業の役割が再認識されてきている。

母子短期入所の対象は就学前が約7割を占め、大部分が精神発達遅滞を有し、

それに伴う行動上の問題や身辺処理の指導を希望して入所してくる例が多かったが、実際の指導内容では、それらの指導より、障害受容、障害の理解促進に力がいられていた。

今回のアンケート調査から、回答者の100%に参加意義が認められ、特に「子どもの障害理解と関わりを含めた養育姿勢の見直し、確認」といった項目に期待が大きかった。ほとんどの例で期待した事項に満足を得ていたが、少数例で満足が得られなかった。これは、親の気持ちが整理できなかつたという場合と、進路の見極めに結論が出されなかつたことに起因していた。これについては、職員の取り組みの質を高めることと、地域資源の十分な把握が必要であると思われた。

本プログラムを通じて、児童、母親共に利用後向上が認められ、前向きな姿勢が認められることは喜ばしいことである。

今回のアンケート調査の記載を参考に、今後のプログラムに反映していきたい。

フォロー訪問記録

児童名 \_\_\_\_\_ 年齢 \_\_\_\_\_ 歳  
 入所年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

その依いかがお過ごしですか。またお子様の様子はいかがでしょうか。  
 さてこの辺で母子短での体験を振り返りながら、その後の様子をお知らせ頂いたりご意見・ご感想をお寄せいただければと思います。お忙しい中、大変恐縮ですが、以下の質問にお答えいただき、同封の封筒でご返送ください。よろしく御協力お願いいたします。

1 以下のことについて右の評価表であてはまる所に○をしてください。(1大役に立った 2役に立った 3普通 4あまり役に立たなかった 5役に立たなかった)

(1) 母子短期入所の全体的な感じはいかがでしたか。..... 1 2 3 4 5

(2) 母子短期入所に期待された主な事項を、下の項目から2つ選び、それについて右の表にチェックして下さい。  1 2 3 4 5

- ① 身辺自立指導 (食事・排泄・その他)
- ② 子供の問題行動の改善
- ③ 医療・言語相談
- ④ 子供の現状理解と養育方法の見直し
- ⑤ 親の気持ちの整理
- ⑥ 家族 (兄弟・父親・その他) の問題の整理
- ⑦ 園・学校・その他、周辺環境の問題の整理
- ⑧ 入園・入学・施設利用等進路の見定め
- ⑨ その他 ( )

(3) 母子短期入所プログラムはいかがでしたか。..... 1 2 3 4 5

- ① 子供の指導訓練 .....
- ② 母親グループ学習 .....
- ③ 医療相談 .....
- ④ 言語相談 (受けた方のみ) .....

2 入所中の指導内容やプログラムについてご自由にお書き下さい。

3 帰宅後、家庭や園・学校でのお子さんの様子はいかがですか。ご自由にお書き下さい

4 帰宅後お母さんご自身はいかがお過ごしですか。ご自由にお書き下さい。

5 その他、ご自由に感想や意見等をお書き下さい。

6 フォロー入所及び来所相談の希望がありますか。

① フォロー入所 a 希望する (案内の日程で～参加を希望する・参加は不可能)  
 b 希望しない

② 来所相談を a 希望する  
 b 希望しない

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:当センターで行っている在宅精神薄弱児短期入所(家族短期施設利用)事業における支援状況(特に小児科医とリハスタッフの役割)、家族のかかえる問題点については平成8,9年の本研究にて報告した。今年度は更に発展させ、「家族短期施設利用」を行った家族に対しアンケート調査を行い、養育の中での「家族短期施設利用」の意義を検討した。それを通して、在宅における家族の抱える問題の把握と、それらの問題に対する療育指導の在り方を検討した。